

NEWSLETTER NO.9



日本NGO連携無償資金協力事業 アフガニスタン 「ナンガルハール県・ラグマン県 コミュニティ防災力向上事業」開始

アフガニスタンでは予断を許さない治安情勢が依然として続いています。教育・職業訓練、保健・医療・水、医療等の面での様々な支援が実施されるなか、CWS Japanでは、これまで地震の緊急支援やナンガルハール県女子校教育のクオリティ向上事業を通して現地のサポートをしてきました。

後者のプログラムでは、災害時の学校における管理体制構築に従事してきましたが、昨年当団体が実施した、自然災害の備えに対する脆弱性が高い地域に属するナンガルハール県・ラグマン県の洪水・地滑り等に関するコミュニティ防災能力の聞き取り調査の結果ももとに、現地パートナーであるCommunity World Service Asia及び日本の国土防災技術株式会社チームと協働で、事業内容の決定・実施体制の構築の準備をしてきました。

さて、今月からスタートの3年事業ですが、プログラムの柱は3つです。

まず1つめは、ステークホルダー（国家災害庁、関連省庁、コミュニティ開発委員会、大学機関、現地他NGO）へのハザードマップ作成技術移転（実習地見学を含む本邦研修と遠隔フォローアップラーニング）を主とした災害リスク評価の能力向上。

次に、作成したハザードマップを元に、防災マップ・副読本を作成し、地図文化の醸成を目指して、メディアとも連携しながらコミュニティ主体の防災教育・啓発活動を支援する、リスク情報活動計画の策定・実施。

そして、上述の2コンポーネントの評価を行い、国家災害庁の中期戦略計画に反映させるための改善提案を実施します。各ステップで、地質調査、測量、建設部門で日本の防災技術移転を牽引する国土防災技術株式会社のプロジェクトメンバーの皆さんに、強力なサポートを頂戴します。

現在の進捗としては、事業候補地の災害の歴史や地形の変遷、社会テーマを再確認し、リソースの配置・準備を行っているところです。

本N連事業の進捗を定期的みなさんにお伝えし、関わるすべての人々の学びを共有できれば幸いです。（文：阪口佳恵）



アカブール市内の通称TV Mountainの裾に連なる家々。地震リスクに対する対応の必要が以前より指摘されている。



アフガンの伝統的な家は土壁によって出来ており、水害や地震に対する強靭性は低く、災害リスクを低減する事が急務と言われている。

カラーセラピー講座に参加しました！

日本語では「色彩心理療法」などと呼ばれる「カラーセラピー」をご存知でしょうか？

福島では、2011年に発生した原発事故以降、放射線被ばくへの不安から大人達の心理的負担が増し、保護者のストレスが子供達に大きな影響を与えています。そんな子供達のストレスを軽減しようとCWS Japanでは、2014年よりNPO法人シャローム（福島市）が行うカラーセラピー講座を支援してきました。

芸術を媒体に使用して行う精神療法であるアートセラピーに対して、カラーセラピーは子供達が絵画・塗り絵・工作・粘土遊びなどの創作活動の中で使用する色彩から心理状況を診断し、且つ、それらの活動を通してストレス軽減を図るとい心理療法です。それは、それぞれの色が異なる心理状態を表すということの意味しています。

今月2回ほど、学童クラブの子供達向けのセッションと指導者向けの講座に参加してみました。子どもセッションでは、子供が中に入れるほどの段ボールで作られた大きなお家をペイントで

塗ったり、紙粘土やカラフルなビーズやモールなどの画材を使った工作を行いました。アメリカでカラーセラピーを学ばれたという講師の佐藤仁子さんは、子供達に創作への指示は一切せず、ただ画材を提供し、にこにこしながら見守っているだけでした。そんな中でも、細かいところまで子供達の行動を観察していることが後のふり返りで分かりました。最初は半信半疑だった私もセッション後のふり返りに同席させていただいて、佐藤さんが子供達の作品から見事に普段の行動や人間関係についてまで分析してしまうことに非常に驚かされました。子供達が選ぶ色や画材からこんなにも深く心理状態が分かるものなのかと目からウロコでした。

指導者向け講座では、私も参加者として体験させていただきました。用意されている画材は外国製品が多く、種類も豊富で質の高いものばかりです。見ているだけでも楽しいものですが、触り心地が気持ちよく、仕事も忘れて塗り絵の課題を楽しみました。ただ、作品を見るだけで、私生活まで見られてしまうようで、それがちょっと恥ずかしいのですが。（文：牧 由希子）



カラーセラピー 指導者向け講座



子供たちの
創作活動

段ボールのお家
のペイント

@カラーセラピー
子供向けセッション

2017防災減災カレンダー発行します！

毎月末に翌月の「防災・減災」カレンダーデータをウェブサイトアップロードする試みを本年より開始します。私たちCWS Japanのウェブサイトを見てくださる方の、防災に関する意識を平時から高めることができれば、そんな思いを形にしたいという取り組みです。

フォーマットについては、卓上カレンダーのサイズ、汎用のCDケースに格納できます。表・裏2面から構成されており、表面のダイアリーに過去のその月に国内外で発生した大災害の日付がハイライトされています。裏面にはそれらの災害の中から1つをセレクトし、災害から得た学びを毎日の生活の中で活かせるようストーリーを作るようにしています。

裏面には、ウェブサイトの各ページのQRコード（毎月違うもの）を貼ってあります！ 私たちの活動を少しでも多くの皆さんにご覧いただけること、CWS Japanと出会う皆さんとの思い出を綴るものになればと願っています。（紹介文：阪口 佳恵）



表紙/カバー



表面



裏面